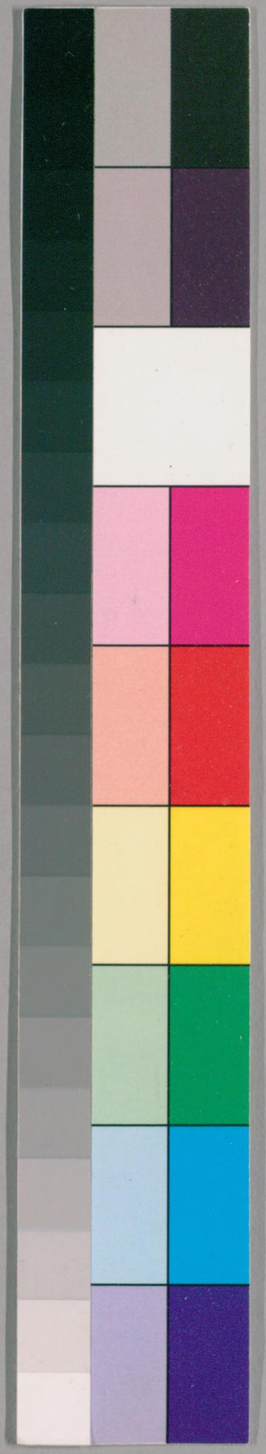
放牽類聚 全

は
67



国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

放牽類聚

は
67

東京圖書館

和書門	遊技類	あ三八 函	五 架	ろ 號	一 冊

国立国会図書館　　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

明治十八年十二月廿四日購求

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

東京國立博物館圖書

放牽類聚

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67
ガラス使用

蒼鷹名所全圖

眼
眼掩
眼門 月門 眼蓋也 星光毛
高樓 頂毛 冠毛
山人 ケヅ急立毛也 山人下毛ニ 鷲毛ト生ヒ上リ逆物ナリ
山忘 目後毛 小鳶胸ニアリ 鵠影毛トモ
白綿 尾後毛 咽毛
折目
水道 正ニ毛 浮世毛
將水舟毛 背根ノ 細毛
亂暈 鼻ノ下際ノ毛
重鱗 翼ノ上ノ毛
綾毛 翅上ノ毛 羽綾毛
七竝 七ツ羽 鱗毛 肩羽ノ毛 又肩先ノ羽茂ル毛
木葉毛 尾際 上腰ノ羽 腰蓑毛
霜山散雪 風流
羽拔 羽又長ク 一方里
長夫 尖又先 此七羽ノ羽先毛也
身寄ノ方
掛爪
鬼平
手前ノ方
受爪
懸爪
及拳
捕居
捕鵙
押添
爪

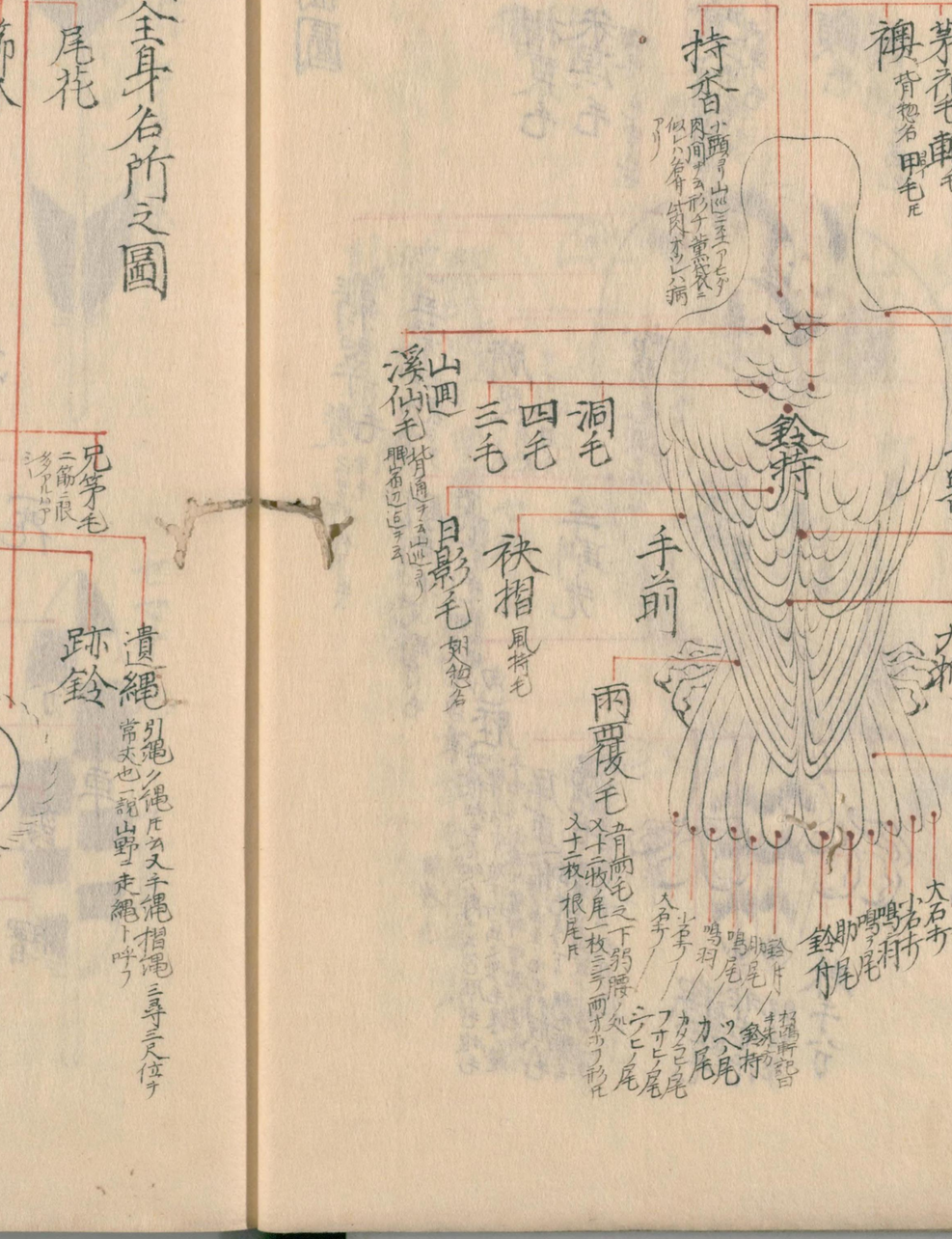
同前面圖

額毛 ヒタヒ毛 病ノ人ハ此毛動也
喰 呀門 嘴ノ外 皮裏ノ毛
褶栗毛 栗毛 頸ヒリノ毛赤色也
翡翠毛髮 赤毛 ミヅロ町 肩ヨリ出ス
君不知 兩翼之 尖裏ニアリ
腑定 ニ毛 肩翅 之前胸腹分
飛打毛 副兎毛 翅兩脇下
副兎毛又副羽毛
包胜 股根細毛ニ処ノ肉ヲ包胜ノ毛 雌毛 小雛トモニアリ 股下折扇之処ノ毛ヲ縫上ルモノトス 亂羽ニ 雪柳雪楷トモ
尾連 胞胜ヨリ連ル毛也 引股ノ毛 尻毛 是ヨリ下ヲ 無毛胜トス
尾花毛 秋衣月前 足華ヲヌク処ヨリ 九ツ目ニテ 細ク助ヲ鋏ノ目トス
手副先
鼻毛
青甫 入餌嘴
餌包 腑定ニテヨリ胸ニ毛 餌隠毛 又胸毛白ヲ鵠毛 鷺毛ニ云 位毛 是也 餌掛毛也
身寄
無毛胜
水影毛 肘ノ毛
蛛手ノ分
保心毛 見ニ長毛
非赤花 尾ノ脊際ノ 白ヲ云
枇先 毛先高処
受筒ノ毛ニ 鼻毛 筒際毛

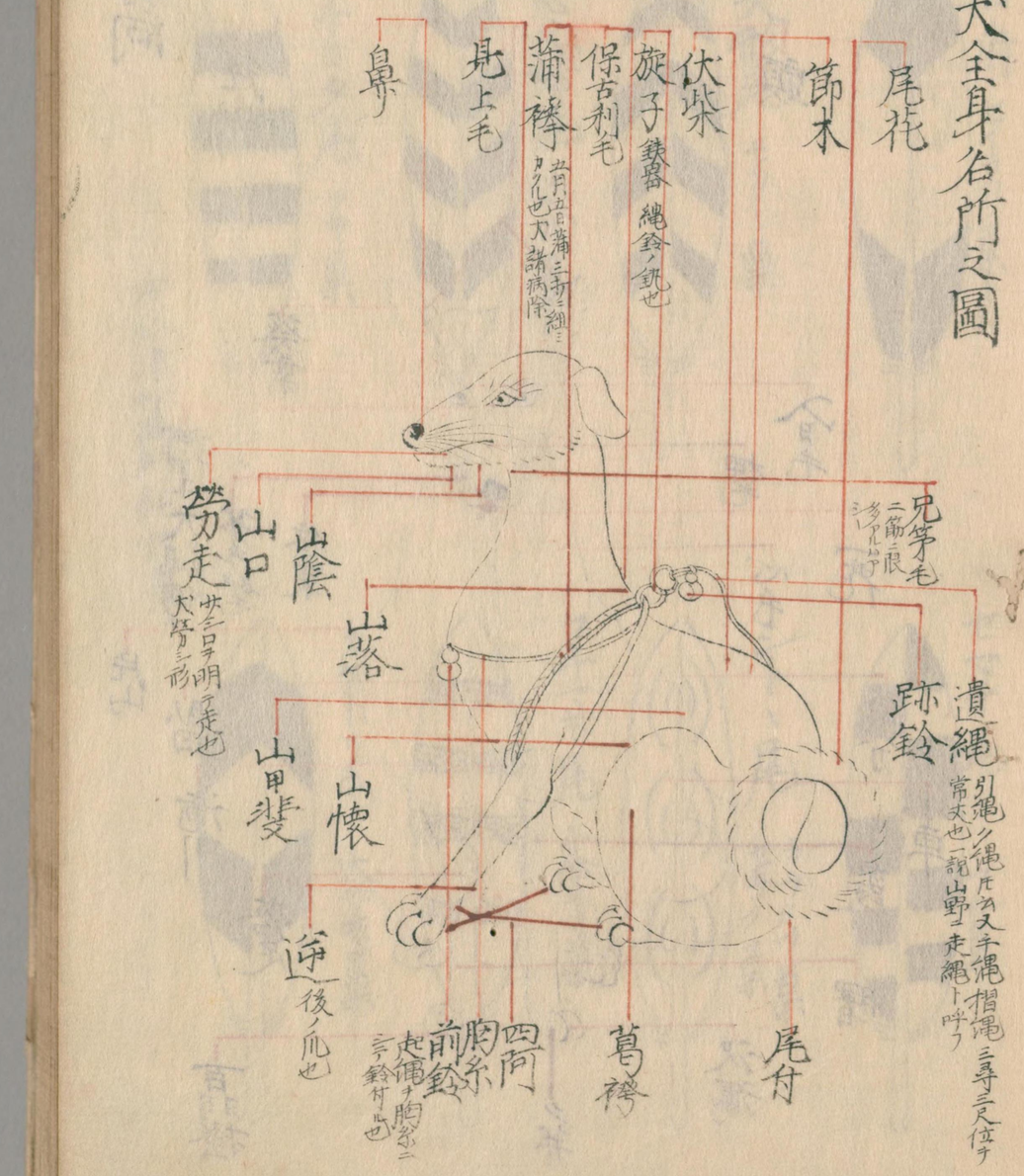
国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

同脊面圖



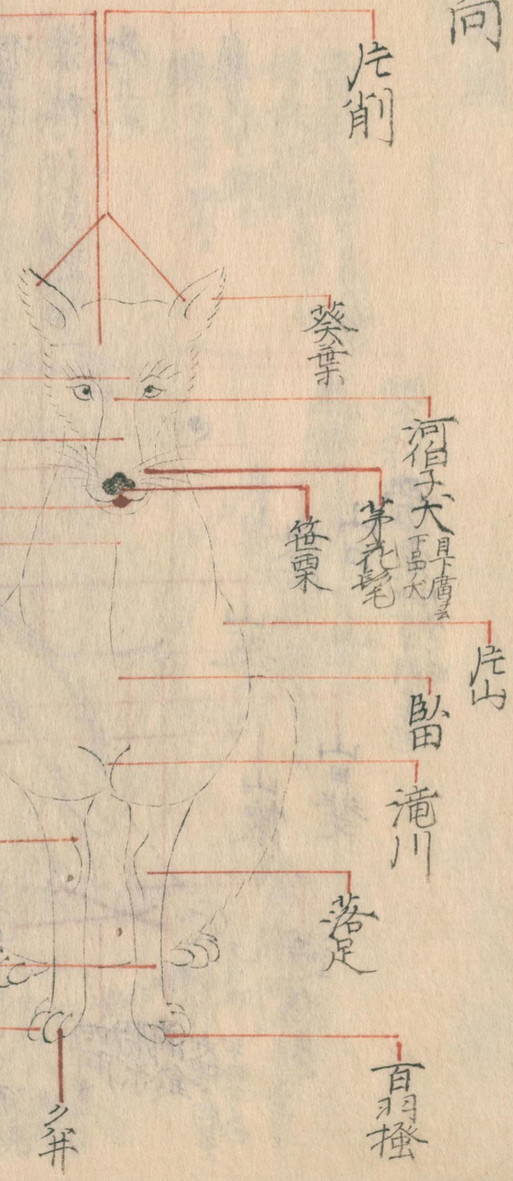
持犬全身名所之圖



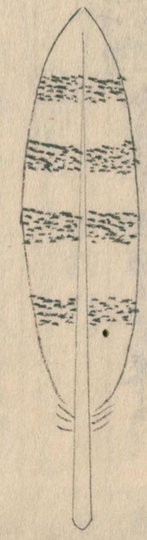
国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

同真向



右秣津柏鴎軒記校書



国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

鈴板

鈴板　鈴札　鈴數　鵜ハ鈴持ト唱フ　傍家々形ヲ異ニス
鼓ノ緒又根肋緒　鼠緒　鈴紐具　鷹狩裝束ト云是也　鈴一組具粧飾ヲ裝束ト云

鷹鳥

執鳥鳥也　貴雅執鳥執也　能服衆鳥也　切員執鳥鷹鵜治也
放鷹之始　仁徳天皇四十五年九月依網屯倉阿弭古獻異鳥（鵠）酒君於和泉國百舌鳥野始繫此鳥　林雅是日本放鷹之始也　同四十六年以衆鳥征放東西北方之三隅求其種類故于々多生摩山鳥野禽異相之鷹逸物生出　同五十一年異國使者北萬吏來形似僧非僧　錦帽子着藤染丸之衣　臂秀異之鷹奉天皇　鷹名久利天宇　其後漸朝廷ヨリ

箸鷹

七月初鳥屋出ル時聖天ノ箸ヲ繼拍子ニテ出ス也ゝ傳又喘強ヲ云又羽師國ヨリ出ルトモ說ゝ也　鵜ヲ箸ト名トヨリ　和歌ニ先鷹ノ枕名ノ如シヨミキタレリ

大木	そらかとの雲ゐの俱知鳥ゆくへの波にうかぶ水の泡	谷朝	季経
同	狩くらす百舌鳥野の法師始とそきく		
百首	狩くらすもゆる山のこの間より立ちのぼる雲の行衛は	谷雄卿	慈鎮和尚
百首	百敷の日次の贄にそなへやる文野の禁野狩声そすさまし	定家	同
三百首	天下る神の法師の贄鷹や雅なりのをさなくてふくらかにけん		
同	玉ぼこの神の贄ゝや諏訪の法師始とそきく	同	後京極
三百首	十まとにあまる仁なきの人の郷		
同	九にある仁なをそい鷹ゝの冬のそらうすく出る雪の夕暮	同	清蔭
日本記	よきことを代々にくつるおきつもの名の法師に		
大木	三鳥野の神の法鷹ゝ狩ぬるも云大ゝの名	谷朝	俊綱
同	竟あるゝ天のいつきの贄奉る		
同	贄ある其の羽風ゝ法師のゝ名の体しるもなゝ	輔仁親王	崇光院
數續吉	狩ゝ狩の袖も今ゝ世ゝ長ゝのゝ名のゝ		

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

三百首
百首　十日三代集ほのぼのと霞ゆふまぐれ
三百首　来て秋ぞ行く雨ふるる夜掛ふるまでもたえず
〃　詠めつる花の梢をかすめつつ匂ひきてとく帰る雁
〃　岡のべの梅もをりく匂ひきて世も又のべの雄よの
〃　とりかへる雁のこゑくいつしかと花ぞ
〃　羽うつ人のかのつばさ
〃　下羽の田つの草をつきもとめ
〃　つるつく山や
〃　鶯のなく夕山鳥すだく矢ふんやきぬ
〃　身のうきつるをほ
〃　ゆくをのさのすゝや矢ふんやきぬ
〃　岸のさのすゝや矢ふんやきぬ
〃　山出のこゑ八千代の秋のこゑ
〃　こゑぬ八千代の秋のこゑ
〃　つるむつのちきりは鶯のこゑ
〃　波のをるまをあふ汐と舟出せよ
〃　こゑなせ舟の色ある稚ちの
〃　菊あるうるある油ちのすゑを

後京極慈鎮
後京極

三首

〃　待つ夜ぞ遠雁のよそに聞きて伏す
〃　障子あけて
〃　水ぬる田面なるとも馬犬のあと
〃　移香ゆりの油のこゑ
〃　ちる葉のこゑ
〃　海義をまゝ
〃　箭ごろのはゝとゝ
〃　御衣黄あるしまの女島つけるほゝ
〃　をたゝくつゝ
〃　草刈の笛のねうにうらひく
〃　すゝあの二ゝれ秋の
〃　秋の野の草のゝくしと花あるを
〃　あるくゝ
〃　秋の野を庵
〃　秋よりもう
〃　雪のゝの野ちのうこ
〃　水鶏花つゝのとゝ

定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

三百首

定家

慈鎮和尚

百首

百首

慈鎮

百首

後京極

谷経

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

百首
月ぞすむ雲ゐをはらふ秋風に
ちりそふ雪の山のかけはし　後京極

慶讃
神つ代に今もかはらぬ心もて
うゐの山路に杉を植ゑつる　俊成

出家
又もかくやがて思ひのたえぬべき
身をうき雲にそむく衣手　西行

千二
諸人のうへの野原となりはてて
旅ねもをしき秋の夕暮　家隆

百首
うき身こそ思ひしられけれ鴛鴦の
ひとりねの床の霜の冷たさ　後京極

拾玉
新六
憂世をば今はかぎりの山の端に
入るとぞ聞かん秋の夕日と　慈鎮

百首
わびぬれば今はの心つきにしを
なほうき物は命なりけり　知家

百首
梓弓ひきてかへらぬ中とだに
なぞ契りおきけん山の端の月　光俊

遠島
思ひきや八十の波路をしきしまの
大和心を人とはんとは　為家

夫木
うら枯れて今はの秋の風ふけば
崖のもみぢぞ先だちにける　順徳院
はつかりのはつかに聞きし声よりも
月の前よりあはれ増さるは　秋のうた
村鳥のうきふしおほき身なれども
捨てがたきは命なりけり　家隆
神垣の文野のあれ河あれはてて
うつろはぬ月もかげこそ宿れ　後京極
鳥やどるうゑ木のなかをはなれても
もるるおもひのあるものかは　永縁
散るをだに惜しむ心の有明に
もるるばかりの花の色かは　仲正
栗津野の鳥立のすぎ跡もなく
つもる雪かな冬の野べかな　好忠
今はねん行くへもしらぬ旅の空
けふの夕暮良志の谷風　俊成
なにはがた鳥のあしげに立つ霧の
あまもいぶせき春の夕暮　定家
衣手も露にしをれてかりそめの
草の枕に夢をだに見ず　安嘉門院四条
神垣や鷲野の原にうち捨てて
今ぞ思ひのたぐひなりける　雅経
かりそめの草の枕に夢さめて
後夜の鐘に残る月かな　俊成
明けばまた杉村山の峰の雲
栗柄の小野の秋風　家隆
その夕べ神人やらん　朝

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

夫木　鷹のゐるすゑ（栗津の）　顕昭
〃　拾ふる真野の萩原こしぬらし　俊頼
月清　秋人の（宰の）帳野へのきぬた　後京極
家集　衣更ふるこゑ（鳥の谷）　道遥院
〃　（草）
〃　（鷹）家香　（もにすだく）
〃　拾ふ（山のあなた）　仲正
〃　野ちの（こと）　為業
〃　つれやまの（こそ）
〃　（ひとり）
〃　（ひとり）
〃　（ひとり

御集　翁らのすのこの糸捌くれなゐ入日のさしてゐるさくら　御門院
家集　遊そぶ小鷹は放ち捕る里よりうへの小野のかり衣　為忠　雅経
砂玉集　捌くとて来てもとまらぬ小鷹のあとをとまらぬ雪のうへかな　後宗光院　宗良親王
李葉集　野もの花ぞ天の川　そ
　　雄よなく山うけもる日の狩ほやかへますま野のさわら
家集　野の草をうちなびけこまろにやとらん成らん　雅経　顕季
　　もろこしの野馬のごと外におそれ捕る斗合せつるかな　兼好
　　雪ぬるし海のかよう鳥の羽も社もまばらに見ゆる朝あけのそら　俊頼
家集　捌くとて鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　為重　雅親
亜槐集　張なきふの鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　雅兼
家集　きりぎりすの小のへ入りけん今ぞ捌小の入りけん　為重　雅親
　　羅ぬきんもとまらぬのあみまいるのおと歩ぶらん　雅兼
　　きりぎりすの入りけん今ぞ捌小の入りけん　為重　雅親
散木集　ふすま野のくさのいほりやかへますま野のさわら　雅兼
　　雄よなく山うけもる日の狩ほやかへますま野のさわら　為重　雅親
　　もろこしの野馬のごと外におそれ捕る斗合せつるかな　雅経　顕季
　　雪ぬるし海のかよう鳥の羽も社もまばらに見ゆる朝あけのそら　兼好
　　きりぎりすの入りけん今ぞ捌小の入りけん　為重　雅親
　　羅ぬきんもとまらぬのあみまいるのおと歩ぶらん　雅兼
　　もろこしの野馬のごと外におそれ捕る斗合せつるかな　雅経　顕季
　　雪ぬるし海のかよう鳥の羽も社もまばらに見ゆる朝あけのそら　兼好
　　捌くとて鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　俊頼
　　ふすま野のくさのいほりやかへますま野のさわら　雅兼
　　雄よなく山うけもる日の狩ほやかへますま野のさわら　為重　雅親
　　きりぎりすの入りけん今ぞ捌小の入りけん　為重　雅親
　　羅ぬきんもとまらぬのあみまいるのおと歩ぶらん　雅兼
　　もろこしの野馬のごと外におそれ捕る斗合せつるかな　雅経　顕季
　　雪ぬるし海のかよう鳥の羽も社もまばらに見ゆる朝あけのそら　兼好
　　捌くとて鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　俊頼
家集　捌くとて鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　光経　東野州常縁
　　御捌をも未野るくてる一つ捌くとて鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　長能　好忠
　　捌くとて鳥もとまらぬ信夫のうの毛の衣ぬるる朝あけのそら　慶運　家陰
千載　降るゆきもまだふかの屋方の鈴のる斗しく野のこの糸　隆源　長能
調花　降るゆきもまだふかの屋方の鈴のる斗しく野のこの糸　忠基　順徳院
新拾　捌人の入の一章の捌くよつれの衣ぬるる朝あけのそら　為忠　正徹
玉葉　そくるの捌くよつれの衣ぬるる秋のふかの一野の白露　生蓮　徳寿院宮納言
新葉　たとひまた捌くとも家の落葉をかきはらひつつ寝ぬる夜ぞ多き　覚性　亀岩百
百首　きりぎりすのうたのしもなく章をかの関こえくるの初霜　軸覚　有忠
正治百　捌人のうの良志のうの太刀良成にはこえくるの本居殿　後光厳院　退子内親王
首　きりぎりすの入りけん今ぞ捌小の入りけん　良基　経教
愛七百　きりぎりすの入りけん今ぞ捌小の入りけん　尊氏　寿夏

延文七百
い

秋空義詮

みうらにたつ山ぢとと立雉のおなつるおつるつるもいるかんかうのとのゝ

為秀

俊成

亀岩言
社暮

いづくにか宿るのこまもこえぬらむくれなゐやまのゝ雪よふきとぢよ

谷雄

俊成

雨暮

ふるさとゝ柿そもろ〳〵秋ふかみ

津守国冬

鹿暮

ふかのやまちをわくる梢より鳴くしかのこゑもたえ〳〵

為兼

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

鷹飼

仁徳記曰百濟酒君以韋繒著其足以小鈴著其尾居腕上ゑく
(アテシト也)所詮主人方ニ後向ニセヌ也)唐人右ニ据ル(ユ)ゑく
鷹匠ハ常ノ翁ノ尉ノ成ノ生ノ左右ニ立テ放ツノ師ノ令ノ飼ノ伍
(飯詰ノ流宇津宮ノ祢津ノ其外家傳アリ)
朝左ニ据也)又曹司南庭ヲ渡ス時必右ニ据テ是ハ御薄ヲ鷹ヘウ云ニ
唐崇亜相政頼鷹術天下施名譽ス野行幸左次将右ニ据テ是ハ御薄ヲ鷹ヘウ云ニ

三首

大君の車の前にはべるとも
鷹飼の二通りにてはべりけれ

人相のよきものゝ前にはべるとも
鷹飼の卑しき野心かな

鷹飼の野への鶉の声よりも
落ちわびぬるは鈴虫の音

嵐にもまどはぬ鷹飼の秋の
野辺にそめぬ萩の下葉を

初雪にそめぬ萩の下葉こそ
打行ところの楢の紅葉なれ

雉子かく峯の榛の下ゆくに
ぬれはや乾す鷹飼の袖

千種さく野山のをかきらひ
にこき分けて鷹飼に秋の野まを引せてもとを

紫の袖はもゆる鷹飼の
芥川や名のみにあらなん

名あれば降るもふるのさらけき民馬ならいとへ

△鷹　鷲猛ナ利ノ又高ク飛モナレハ名有ノ鷹ハ雄ノ大ナルニ大音ヲ呼リ諸鳥ヲ畏リ武第鷹ノ音轉雌ヲロウトヤヲ呼ノ音也トイヘリ古樂府豹則鳴兄ト云ヘリ
○東鑑曰信濃諏訪明神ノ御贄鷹トイヘリ天竺鷲鳩契丹摩鳩トゝ
取ル鳥ハ近世ノ支トイヘリ鷲ヲトリ雀鳥ヲトリ高麗國優雄トイヘリ

○名鷹　上古磐手ノ野守（天智御宇）白兒鷹（持統）韓鷹（文武）藤沢ノ山家（後條）月輪（愛宕月輪ヨリ三井綱ヒシ也）
○上古遊猟地　百百島野（德）芹川（孝謙）宮滝（聖武）大原栗前水生大井川平城嵯峨（桓武）北野（聖廟記載）

○鷹書　鷹経（仁徳御宇渡来ル）新修鷹経（勘海周ノ）摩訶鷹経（宇治陰陽師作）
鷹成録（文明帝ノ年ノ六十巻）日本記（宇治陰陽師作）養鷹記（後ノ貞數中）
三光傳（持明院基家作）白鷹記（桑原良作）祢津松鶴斬記

○舞曲尊放鷹楽（楽談史云弘三年八月一日楽民奏之舞姿手ヲヒラヒラ左手ニ鷹ヲスヘ右手ニ
楚ヲ持タカヒラノ躰也野行幸奏之）

鵰鷹（オホタカ）

大鷹ト訓ス　白鷹　角鷹　祢トス　鷲ハ鳳之屬也　大鷹ハ朝鮮ヨリ来ルトソ
集覧曰　洋鷲　鷲ノ鳥ノ似タル也　赤目也尤奇鷹ニ

百首　尾こきの島のゆきゑと大鷹のきりやあはれなるこゆる雪の朝
　　前大納言為家

後京極

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

三百首　鷹飼の夢の通路のあけぼのに
　　拂ふ〳〵る鈴の音や舟とゝめ引
百首　鷲飼の箭に火ともすとこよひを
　　ふもとけぬる牡鹿の角
夫木　さゝをゝ交野の冬の御鷹飼
　　ふもとに立ち合せつゝ

定家

慈鎮

家隆

ガラス使用

白鷹

白子生ず寂上ゑ則俗諏訪明神ト云
天武記ニ東國貢白鷹

三首
いなのらてふ山に鶴と栖る白鷹の子の名に負るかな　定家
灯とわるにちく鳴もてく白鷹のすみもやせんん
冬山のねの本居取ゆくやうにんん　後京極
立春のあしたを詠めをすもをく出る鷹
秋の霜ふやゝ白のふかくく入る鷹
新六

真白鷹

新六
三首
秋の霜ふやゝ白の鷹のすゑ
ふりのゝ白の鷹のすゑ
野ゝ原なく　　後京極　　益茂府

白尾鷹

一條院御宇唐崎政頼御狩之時鷹古巣ノ山ヲ思出氣色悪ヲ云上ノ尾云枝
切ヲ鵠君知ヲ羽ヲ継ヲ云ヒ羽白ヲ改残雪ト思山心止ヲ也傳吉例此時改頼詠和歌

百首
あともなき白尾の羽風ふきかへしめ
朝朗ふりのくの雪ふりのこす白尾の鷹　　政頼
三百首
家集
拂ふ袖ふりのくの白尾のうへを手ふるふりのこす白尾の鷹の残る雪
百首
ふりのくのあしたの原の月路をくもる白尾斗やふりのこすらん　　慈鎮
ふりのくのあしたの原の月路をくもる白尾の羽風ふきかへしめ　　定家
ふりのくのあしたの原の月路をくもる白尾の羽風ふきかへしめ　　後京極
ふりのくのあしたの原の月路をくもる白尾の羽風ふきかへしめ　　谷経
ふりのくのあしたの原の月路をくもる白尾の羽風ふきかへしめ　　能因
ふりのくのあしたの原の月路をくもる白尾の羽風ふきかへしめ　　後京極

黄鷹（ワカ）

黎 和加多加（今案青白色ノ隨カ） 陸個 鷹一歳ヲ一ヶ

三百首 夏創のやうやう季成りにけるかもそよぐ
〃 取るものもとりあへぬまでの秋ぞとや先出でそめん
〃 数多鳥屋ふせてこそや今ぞ見る古本居に似る秋の初雁
〃 あらの柿のもろこしの秋とそとやとや鳴きつるかん
〃 秋のくるまま雨ふるかやきの声取鳴のつくるかん
百首 夜を寒み草より早くかりにけるかの棒ぬきの声のあやめ

定家
後京極

新（アラ）鷹 荒鷹

三百首 いくかのみつる序と鳥の毛とりかふ宵半になりにけるかの山
〃 早稲の下ほわせかにそよぐ多田の苅穂のもるまで先そせく毛やうるめん架のあるか
〃 星流ふよにすむるあれ生ひつくよう山のすれ
〃 冬野もおわるまんあれ生ひつくよう山のすれ
〃 えらのくの信夫の山のあるにおいやうくつくらんちきりくやきけくるおくて
〃 うち子伝ふのせをいくかのいるあくかのそまるこふそあるこまるこふそあるこまるこふそあるこ

毋鷹

三夏背　ゆるの拾るのうい　あるこあるこ　こうこそすれへのこつさに　定家

矢形尾鷹

三夏背　夫木　頼する野見ゆるやのかへ　三河野やうくしも千ゝ矢形尾のうく　定家　為家

詞花　百首　はまるくさまのねをおもふ　こまの本原さもあめのめれ　野るもこそ　倶知の鷲尾　如覚　寂厳

鷹にまもせまもう丁戒やうをに志よく尾交う　鷲尾　満尾　龍山　慈鎮

沈よりも文のるこのまふうくへの船のなたる　矢形尾のうう

毋槐集　なひ年り色やうる矢形背の　後京極　雅親

沖くきゆうたをと矢るとのうく　家集　もつうく草うけせくようんあうく　忠峯　知家

新古帖　あらき云別ぬんほまうをつ　夫木　矢形尾　憲実

千載　寺うやたひかるみうとのにか　新続古　頼政　仲実

やうとのうかとるにうつ　歌枕　岩根のにうつたくやうとの　新古　顕朝　良基

文野のにうきかある君代ほの　万代　兼良　雅縁

ううにうやうかなぬやうとのう　人麿

戒よう山すをせくようんあうと　矢形尾のうか

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67

ガラス使用

空取鷹

百首　夫木　いそなよろ　高さばかりの小野の　いつきそめ　雉子の初尾の　野辺ばかり　空取るように　合せつるかな

いつつ百首　亀岩　いつつしを　取らの原の　仲つ秋　堀川後度　空雨ふりて　雲のうへより　鳴くしぎの　入合をまつ

草取鷹

夫木　いかのうちも　きくたの野べの　ひしもなく　草取るかりの　あとをこそ思へ

いつ　待のそらもの　おもひのこせる　草取らん　かりのこゝろの　ゆくすえも　なし

三百首　夫木　春の野の　若草つまん　袖のうへに　かすみたなびく　ゆふぐれの空

木居取鷹

三百首　春の野の　若草つまん　袖のうへに　かすみたなびく　ゆふぐれの空

いつ　高き木ずゑを　取なをす　山風あけぬ　くれの一夜に

夫木　あしたのそらの　かりくらるゝ　木居をとるらん　雪にまつらん

定家　顕仲

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67

ガラス使用

朝鷹

朝鷹 鳴鳥将聞居鳥 春

三百首 鳴鳥もうちはらひつゝ打ちとけて 人
いつ 知る将軍のつとめとうらはすら 定家
将人の呼ぶこゑ聞くや朝戸出に 慈鎮
いつ 苔むす庭の霜の上のうつろふ 後京極

佐保姫 継尾

佐保姫鷹

春鷹 山神ノ鷹トス山神ノ在ニナケレバ山ヘ帰カケストモ
佐保姫春山神也

三百首 打ちなびく柳や梅につゝく 人
いつ 見るのかぎりそめてや春霞 定家
百首 庭にわるくまひめぐるの庄つゝ
いつ くるかのふりゆく山つゝ春の色 後京極
竜山

継尾鷹

白尾鷹ニ同シ

百首 雉の声を余波尾になびかせて
慈鎮

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

巣廻鷲

親ニ餌ヲ飼レ巣ニアルナニヲ

三夏ノ青キ山木ノ梢ニそこらそこらそこらもひろきをすまの巣廻のうから　定家

野佐礼鷲

日く野数ヲ踏セルナニヲ又木枯ニ取ルナモヲ

三夏ノ青キ山ノ梢ニ幣奉ル野ヲ狩ルカラ巡礼ノ旅ニ立チテモアラウカシ　慈鎮

山ノ端ニ幣奉ル野ヲ狩ルカラ巡礼ノ旅ニ立チテモアラウカシ　後鳥羽

つま恋ノ心ノ島ノ島ノ島

撫鷹（ヤヘリカヘリ）　佐鷹　山鷹　蕃半山鷹　俾蕃諸山鷹　季春

百首　夏衣の秋そ〻の山辺うつろふ人のくれなゐか山そ〻ろ

〃　信夫山陰に先立つうぐひすの〻に向ゆき山そ〻ろ

〃　十羽ほど古辺そ〻ろん伊一草をつまむこそもすそ〻ろ

夫木　忌引のやまこのくれなゐかのきもそ〻ろなるまで思ふよ〻〻

家集　引そよ〻〻この山そ〻ろ

百首　もそ〻かのそもをもそ〻ろ

〃　新帖　山辺うあうけのそ〻ろのまでも

〃　壬二　もそ〻かのそもをもそ〻ろ

夫木　うそ〻ろ雪の古辺そ〻ろ君そ〻ろ

百首　初花のまことけぬ君そ〻ろ

〃　為家　君そ〻ろ

〃　家隆　雪の古辺そ〻ろのみそ

後京極　慈鎮　定家　〃　〃　顕季　家隆　後京極　〃　家隆　匡房

軒端杉鷹

百首　はるの野にありはてぬる軒端杉うつまさく別るまさこ哉　慈鎮

日本六十六ナツキタルナラン　契丹國ハ放牛飼ヲ云

将津女ノ鷹

百首　一ふしにそあらしめねとを追柿る鷹ゐれそ山田のそうつめ　谷経

川残田ニ鷹ヲ取ヲ云

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67

ガラス使用

波登屋鷹

延喜時名鷹

三百首
い　ゐ
い　ゐ

平賀鷹

一條院寛平席献鳥鷹七日目放之歩行方此鳥親為鷲
為捧故其敵取像帝御夢之見給ふ明日夜明鷹迎ふ来舎
血染ん紅ヲヌ鷹匠其曽ふ奏奇鷹也名紅鷹ト申

夫木
三百首

出羽なるひろのそらとぶ鷲の為にもなるなり
親をそるひろのつまにふわしい鷹のかひなし

光俊
定家
後京極

冬野なる平賀のしら鳩よそ
家つるひろのたまきそ

小鷹 ——狩 秋

三百首
い

か島の愛東そ其小鷹なる品大
物しく犬のあるにふさへ
しきの初につけしうら笛のうら
文野うふさそ飼里山生ける放つ
百首
い

多はなつそに小うのけうそ
狩つ沙わるのよわ家つをわき

後京極
定家
い
い
後京極
い

初鷹 初鳥狩

三百首

そうをの残り也くえ兵や
ひろ秋のそつか

定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

鷄（ハイ）

漢語抄云波之太賀 武羽師鷹 兼名苑 鶻（鷄也）江南呼之貝雀 善雀ナトル故也
晉書有南鳥鷄。齊國人呼之雀鷹。莊子 鸇ハ布穀ノ異名。布穀 鷄異名 伊豫集 玄玉

三百首 陳を雀又ふるひて鷄のくそのうへに
い 信太なる気色するものは小池にて雀 鷄
い 離りね文をすてる鷄の人ゆりけん
い 声もはまるそらもるの亦併をそそく木にあるそん 定家

形よそるはけつやそるの鳥うくれもそそん
い 鷄の屋根の波のうそそん 仰く 出る秋の三日月 為鎮
い 夏くき放つ鷄つめの生鷄 朔るもうくき 俞 後京極
い 出そう峰とう菴る鷄くそくまうそくへのそその 鷄

鸇（ヒ）鷹 唐雀ニ鷄屬

鸇（ツリ）子 唐雀ニ鷄屬

雀（ツ）鷄（ミ）鳥 木葉ニ北山ニ通ニ

兼名苑云雀鷄ヨリ雀ヲ捉 楊氏漢語抄曰須々美多加 又豆美 俗雀鷹
又鷂 秘府傳ニ雀鷂作 鷄屬也

三百首 つまよりふるひそのうへの野へる雀うそふ 信太松
百首 ふるもうそふにつそふにたるゆる雀 竜山

太木 あなるかくの中のそうみなれそやつのうへに 慈圓
為忠家百 出る秋原のうをうそまうふるつそのあくよ 親隆
四つそのわるものうそに下うそ羽黒のうのけそるう 為業

黒雀鷄

三百 うそ木のうふ仮傳当をうそ 定家
新六帖 産ゆいうそうそんのうそ馬つ成うん 為家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』 請求記号 は-67
ガラス使用

熊雀（クマ ソヽメ）鷏

三首そ　をゝぶ木のうゑ木にそゝろなやめそうそのまゝ成ぬん　定家

雀（ツヽ）鷏顔（メ）鷏

三首そ　ほの世のうそこの雀もうそくく月のあらしきつゝらのそゝろ
百首し　そゝろかのそゝろくわをこそくくいさゝしろたゝしろしろいつゝらか　定家　竜山

執（サヽ）鷏（ハ）

雀鷏　鶫鷏　鷏鷏

〈執鷏　逸勢似隼故小隼トゝヌ戈鷏　差隼剋羽
張九齢　鶫鳩（ガヽ）鷏鳩也　鷏屬也

三首そ　其のれをにそうへもそゝろくに半そゝろともそゝろあれなと野への花やなゝろきくゝ　定家
百首そ　夫木　経兼
三首そ　夜明れもそゝろくのかさゝぎのいそやそゝろ秋のにそゝろ花のそゝろ青そゝろ　定家

青執鷏

百首　玄のにほ心民青そゝろ　注
三首そ　春のゝの草に雨へもそゝろくわそゝろせそ夜ゆそゝろくや　定家

兄鷄（コケイ）

兄鷄 呂則鷹

漢語抄 古能利 鷄ノ雄也 ○雌雄小鷹属也 又、摯宇鷹 ○強勇ナル鳥故羽競ニ己ガ雄ヲ定也 羽ノ久ヘ鷹ト云

三百そ〻を雀ころの〻の〻秋のう〻伏 定家
い 伊秋ひるこそうさもわるてそそるる社 やくへ〻わま
百そ 中山田のそうらうこれうへ〻 慈鎮
いるそもそね那須のゆるうへ〻 為忠
為忠百 出そようけやるこそ川田のきに合せつる郎 仲正
三百そ そ雀風ふそそ秋の川田に 雀ゆるき

小男鷹（スコノヲタカ）

百そ 津ろ玄雀麻そそ秋のう〻わるすこのう 龍山
三百そ そ雀ころ野辺のそ秋のう伏雀ますそる秋のすこのう 定家

隼（ハヤブサ）

晨風 異名アサ鳧 鶻 斐務齊切貫云鶻鷹屬隼鷙鳥也大名祝鳩也

梨八夜布佐 張九齡曰隼雌鶻雄也ゝ 丹後國ニテハ吉良有ニ

言そ〻 隼と言そ〻追も合そる古川のへの秋の了 定家
い 隼の野取鷺老やそ〻の屋をけよる秋伊〻 い
い 矣そ〻伊〻と言そ〻隼の大そ〻犬そ〻へそ〻ん 為松
い 隼小巣よそ〻くそ〻そ〻ものほもん体〻そ い
い 隼やそにけそ〻有そ〻ん田そ〻のそ〻きこのそ〻ろ〻み い
百そ 引そ〻も雀そ〻おそ〻冬〻の雀 凡 仁徳
い 雀そ〻ろ〻隼そ〻ろ〻伊〻そ〻ものそ〻隼の隼 竜山 い
い 隼にあて雀そ〻れそ〻伊〻きのそ〻沢水よ伊〻そ〻 い
夫木 凡そ〻そ〻沢へにける隼のそ〻やくも 秋のう〻きみそ〻郎 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

鷦隼（ヨツハヤ）

三音ニテ

彦深曰雨ノ全鷦ハ凡鳥ノ身テ双雛ヲ文剣ノ武鳥即隼也說文曰雛ハ祝鳩也
杜預曰祝鳩ハ鵻鳩也日本錦隼五雑組鵻鵴ハ鷙撃ヲ鳥也
メテ千秋座ノ式ニハ錦隼ノ文ヲ成ス剣ノ文ヲ隼ノ文ヲ成ス剣ノ文ヲ

雀鷂（スヾメノタカ）

三音ニテ

定家朝臣ハ雀鷂ノ文ヲ雀鷹ノ文ニ書ケリ

和名抄曰小鷂鳥也
張九齢曰一嵩鷹也能執雀ヲ今鷂字ヲスヾメト訓ス
紫鷹 幻鷹 普提鷹

定家朝臣

鵰鷦鷯（ヒヾリミソサヾキ）

三音ニテ

小法眼の草もいろねや鷹ども野もさながらも兵羽つく

定家

身ニ生色青黒地ニ交ヘ白シ

青鷹

三音ニテ

廣雅曰三歳名之一白鷹

青白

定家朝臣

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

雎鳩臆贅

一條の院の御時一の宮雎鳩を
而子御覧じて儒臣に
その名を文雎鳩の
代の名宿也
按ずるに
拾芥抄
著聞集

千無喜麻呂

異名

三百て
いろ〳〵
あるもの
死ぬ
房付
定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』 請求記号 は-67

ガラス使用

煖鳥（ヌクメ）

三知抄 鴈鳥寒夜以鳥煖足夜明放之真鳥飛去方一日不鳥取ゝ
文以贊比著鴈

三夏ニ たのそる拳の月のめくめくそう 形根の 情をしる 落穂
夏ニ 宇万ゝ一よめくその 煖鳥 放つてくらもあるけなゝり

鴈鳥

一名著尊 雛也

額毛（ヒタイニ）

三夏有 死源人の取れる松本のこけもをそろ
秋ふるのひくいのもをしこれるつれのそろ 卒ろれつ
冬有 あいをくたのそたる額も取あなゝゝそろ結ふる

定家
古経

愁毛

額毛ト云 病アレハ必此毛アラハル

粘原毛

三夏之 家の下松原の毛のおりつくそやうしなから 玉章の うつゝか

定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

摺栗毛（スリクリ）　朱滒毛（スカクゲ）　首巡り毛

三首ニて　いろかの育のあるの摺栗毛　馬屋どうしてもうひやうし　定家

将付毛（カケツケ）　脇脇毛

三首ニて　ゆるのかく付のもやう奈の羽や取りそへまつ成つん　定家
百ニて　深ひあの下白のまつ毛百ニそへもまにう　竜山

浮世毛　志留志毛（カケ付同）

三首ニて　ゆるのかくにうかのあの野へは発そうまつる　昌栄松

就鳥毛

頂生ル毛ヲ是迄物也

鶴影毛

胸ニアル小鷺也　大鷺眼ノウシロニアリ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

見渡毛

唄ノ毛

綾毛

翼ノ上ノ毛

木葉毛

上腰ノ小キ羽ヲ云 腰巻ノ毛

夜寒毛

背ノ裂目ノ際ノ毛

翡翠(カイ)毛

一ニ髪ト云 肩ヨリ出ス赤毛

三国志注係の翡翠のそら髪かんざし 枕草子ニ鳥羽殿記曰 餌包ノ辺ノ毛トゾ

柳の糸にまとうもそれか 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

次毛
君不知
位毛

次毛 鰣毛 肩羽之毛

君志良須 両翼之裏

位毛 餌包ノ毛 鵞毛

鷺毛

鷺毛 圓

遠山毛 身毛

松原毛 腹ノ毛惣名

三頁ニ馬屋ニ有ノ物ノ毛ニ似タレトモ位ノ毛ヨリ松ノ毛ニ定家

三頁ニ馬屋ニ有ノ物ノ毛ニ似タレトモ位ノ毛ヨリ松ノ毛ニ定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

山陰毛 景毛

受飼ノ毛也

三百ノ着ノ日野ノ山ニ産ノ子ノモヨウ ヤモリノヤウ 定家

水影毛

肘毛

押毛（ナス） 縫上毛 雪押 雪摺

股下折屈處ノ毛也

三百ノ雀ノ野ニ遊ブヤウニ ノ尾ヲ ヒロゲヨウ 定家

百ノ ヵ餅ヤ ノ如ク 剣モセンタノ尾モモノヨウ 童山

家集 狩衣 袖ニ ヲ ノ押毛ヨウニ ヨロケルヨウ 為重

狩衣（カリ） 尾花毛

押毛ノ連生ノ毛

三百ノ着ノ ノ衣ノモヨウ ヲ ススキノ穂ノヨウニ ノ衣ヲ ヒロゲ 定家

百ノ ヨウニ着ル ヲ 鳥ガ ノヨウニ ヒロゲル

衣ノヨモヨウ ニ アシヒキ ノ ヒロゲ ホ 慕

ヒロゲ 頃ノヨウノ ノヨウノ袖ニ ヨク

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

乱糸

押毛ノ内ニ毛也

保正毛（ホウソウ）

足ノ長毛 訓毛

三百そ　はすくろの保正の毛の如日もそや誰のそらねさうにつくらくらいうきやとるそらくろの夜にこそ外のそら赤鷺　定家　俊重朝

枸華（ヒヤク ハナ）

非赤花 尾先白毛也

三百そ　秋らきとやの垣ねの夕顔のひるもやさかり　定家

五月毛 五月雨毛

母衣毛ノ上毛也

三百そ　呉服島あやもこる五月毛いろれのさるのそ夜ともん　定家

芽花毛

母衣毛連ノ生ス

三百そ　玄鶏のこやの内なるつくる毛の春野よりもこそ初つるから　定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

毋衣毛（ホロイ）

背ノ膨ル処ニ一形ニ一帯

三首ニ　雀の毋衣のそひ毛や毋衣百そへてもるのとそちにつく毋衣の羽よとりつたへるさゝめごと　定家卿家集

甲毛（カロイ）

背惣名

洞毛

脊四毛ノ処ニアリ

三首ニ　きそしのあの網洞毛かつく月に出る鷹こゝ　定家

日影毛

翅惣名

三首ニ　時雨つる秋の山辺のくれかゝり日くるのりけのもとをたちうきやまの下うけ　定家

風持毛

翅ノ裏ニアリ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67
ガラス使用

雨覆毛

尾花摺毛

尾花毛

身無羽ノ腰ノ毛

上毛

下毛

翳毛

鼻毛

鼻毛白ガリハトコロ白ト云

三百ト　もゝくろのかゝるをそや山里の梅の花毛のあるが如く
鼻毛にハなるもなけれもすゝろに　定家
百ト　そのもゝをそかゝくろの胡粉するゝろぬるとも　ひくやうにて
名にあてゝ梅の鼻毛や匂ふらん　竜山
百ト　もゝくろの羽風も春ふしき

紫毛

三百ト　紫の毛なくもそあるかきりにハほゝかをそてもらん　俊成

翠毛

百ト　そともゝくろの姿の本居ひうらくろ　羽明

文字摺毛

三百ト　そらのくの住吉の山のあくろの文字摺のもゝくろ　俊成
百ト　ハしそうくのかの伏かちのし也ふ文字ふうわれふうたう

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

風向毛

百ニ〻其の野に生ずる毛の風向のもとろけ〻る 竜山

四毛

脊ノ毛

百ニ〻もとゝるの生毛ノ如し此風よる刻の弱そこそそうめる 慈鎮

未毛

惣身ノ毛ナ立身スルイヌ也

三首ニ百ニ〻尻毛の未の毛ゝろ〻行〻麁やとこの所も珍ゝろ〻ん 定家

諸毛

尻毛ノ谷ニヘシ

三首ニ百ニ〻猪ゝろ〻諸毛の小麁引ニ〻麁るのこゝんゝろ〻ゝろ〻ゝろ〻

薄毛（スキ）

三巻て すすき毛の奪ふくかつりゆるんとそのゆふ計 阪家抜

ウス毛

百育 旧説を奪のうとそ毛の朝霜にそのやう形 阪家抜

農利毛 産立時、毛、白チ云 御法毛

三百育奪人の弱のかの利もも握りめる
百育 のか毛ろろそ黒奪のさそろるく兵統ぎそ剣の化 定家 竜山

三巻て このう毛のうかのかひまるるなとそろるのちそよへうくる 阪家抜

毛奈志（ハキ）胜月 足華すス雪ノ処

三巻て 鳥百年一の一羽も本身の毛なし年度ごろ奪松ことも 定家

赤毛

新六 山通る赤毛の奪のう別ともんおろく君なもの二なる 寓家

卯花毛

三首と　卯の毛並もちまちまちふかのすつこそ鳴卯花の山　好家抄

菱毛

三首と　枝へのそうこ池のかうこふかのひしこそ　定家

大石手、小石手、二

三首と　青い川瀬かをあこやあふかの岩よりやつるき初りん　定家

鳴尾、四

三首と　番鶏のなく尾なく栗のとくふかのなく尾のうらねてんもおくね迄しくくる　好家抄　雑々鳴　谷経

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

助尾 五

三翼ニ赤斑ノ鷹ノ尾ノ名ノ自
百ニ
物名ニ
類

鈴付尾 六十二枚

鈴持 又尾 千五尾 カタヒ尾 子七尾 シヒ尾 十二枚谷名替 又鈴持

三百ニ 秋山ノニホノ下ニカケテ鈴ヲツケ…

定家
百経
ニ雅

鳴羽 三

青鷹ノ赤斑ノ…
百ニ
…ノ羽ノ…
…ノ羽ノ…
夫木
類
家集 雑ノ…
…ノ羽ノ…
新葉

定家
慈鎮
百経
後京極
雅経
為広
人麿
常縁
會要

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』 請求記号 は-67
ガラス使用

左羽 右羽

逸物之羽遣也

三首ヲハシラカノ方羽右羽ツヽ本ノ百ヲモチ〳〵カノ羽ヲ引テ方羽ヲカクル家集 箭ノ陣飛ニ左朋ヨリ右朋ヲカクル

定家 慈鎮 元奇

大羽 小羽

元ニシト飛形

左右ニチラ〳〵飛形

三首ヲ〻ムラ〳〵ト大鷹ノ小羽ヨリ飛ヲトリサシモチ〳〵ト箭ノ如クニ

定家

荒槌聞羽

荒槌(コモチ)ノ音聞(キ)

三首ヲ箭鷹ノヨリヲ十ホド一ツヨリ打ヲキテ次ニ二ツ三ツ四ツ五ツ六ツ七ツ八ツ九ツ十ホドヲ

羽競（クラベ）

根津花鳥軒記ニ羽クラベノ鶴ト雄雌ノ大小ニ依テ羽ヲクラベ大鶴ニ小一ツヲ取ルヲ云ケルトアリ三百千ノ牛ヲ二百千ニ妻ノ字ヲ添テ二百千ニ妻ト云ヒ三百千ヲ二百千ニ妻ト云ヒ五十千ヲ百千ニ妻ト云ヒ百千ヲ

架羽

鳥ヲ追オクテ鳶空中ニ入空ヨリ落ス三鳥ヲ取ヨキノ羽ナリ

三百ヲ尾上紙ヲ二ほそくきりにほそくけづりたるもの
百ヲ薄ヲ二ほそくけづりたるもの
架羽のきつかんとするやうにするなり
架羽ながきやうにするなり
架羽なるやうなり

定家 宗祇 紹巴
竜山 慈鎮

賞登与利羽

左羽ヲ用ユ

三百ヲ左鷹ノ尾ヲ十ほそくきりにほそくけづりたるもの
百ヲ大空ニより羽ヲ弁鷹ノ尾ヲ入ぬきとなるやうにする

定家
竜山

萬須加喜羽

谷ニ入ス過ニ一文字ニ渡セ

三百ヲ第一ノ羽ヲ二ほそくきりにほそくけづりたるもの
百ヲ第二ノ羽ヲ二ほそくきりにほそくけづりたるもの
羽ヲ二ほそくきりにほそくけづりたるもの
羽ヲ二ほそくきりにほそくけづりたるもの
羽ヲ二ほそくきりにほそくけづりたるもの

定家
谷注
竜山
慈鎮
紹巴

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

鈴持羽

上ノ毛ノ上ニ鈴隠上下小羽二枚アリ

三重ニテ秋山ノ打物ノ鷹ノ尾ノ末持ヤウニツケ朝モラヒ鷹ノ寝床ニモスカシ尾ス羽ツヨシ

定家ノ説

石打

下ノ尾ナシ

三重ニテ青山ノ山陰ニアルヤウナノ羽ヲ白星ニテアラハシタルヤウナノ毛其ノ石打ノ羽ヨリ細ク短シ

定家ノ説

打羽

火打羽トテ羽先ニ枚ナシ

三重ニテ玉ノ川ノ渡ノ打羽ノヤウニ細ク短シ秋ノ三日月ノ形ニ似タリ

定家ノ説

雎羽

鳥ノ落ル處ニ入ス鳥モモ取ラヒ羽ヨフ多クトラシテ居ナリ

三重ニテ秋山ノ雎羽ノヤウニ細ク短シ鎖ノヤウニ波ノヤウニ波ノヤウニ雎羽ノ鷹ノ尾ノ末ニ水ヲルノカケ有ル淺川鴨ノ鷹ノ尾ノヤウニ雎羽竜山

定家ノ説

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

羽裳呂喜

据ニ時羽ヲチラス

言ヲ取推ク夜ニ紛ラハシ言ヒ来ル鶯ノ羽ヲキ 定家

尾多々美

十二枚ノ尾一枚ニナシタルモ

言ヲ中ニ籠メ秋ヨリ後ノ雪ノ白キ一羽ヲ隔テ来ル尾ニモノ 岩手

加裳井

尾ヲナシラニシテクロクモ

夏ノ 水ヲノケ夜ヲ十ノ澄川カリガネノ 雁 羽 竜山

農計羽

山ニ付テ巡ル時ヲ

夏ヲ 過ヌルカニ聞ケンホトヽギス 農計

鷺尾

尾白クホシタルモ

言ヲ 取ルヲ待ツ程ノ稽ノ尾ノ白塩ノ 定家

翥尾

舞心有也鷹ニテ婦也

三首ニ有つくのごとく此ハ青の四つの尾ニ百つゝ有ニ依テ名ニ呼ぶ青尾鶏ハ青の尾ニ百つゝ有ニ依テ名ニ呼ぶ

、は皆つゝ有ニ依テ名ニ呼ぶ

定家
竜山

白生

尾ノ白ヲモツハラニ云

百つゝ 一ニ白の白生ヲ白ゐつゝ白にまろ香も白鷺
、 ニまろ隆ねと身ゝ剪ゝまる菴ゝ
まろ座ニまる白生のゝかの本指ゝ
堀川百 指ゝゝ毛のまゝ払ゝもゝ白ゐ
金槐 菴座のゝゐ白生ゐゝゝゝ
拾愚 ゝゝゝかの沼まゐ白ゐまゐ
新六 ゝゐ数も白ゐのゝゝゝ
夫木 ゝゝゝ剣の称のゝゝゐゝゝ
、 衍智まる山路小秋の本ゐゝ白
ニまゐゝゐ体ゝ三ゐのゝに白
金葉 はゝゝかの白生に色ゐゝゝ
後拾 ゝ毛まる白ゐのゝゝゝ
遺百 三ゐのゝゝゝゝゝ
、 ゐ朝臣ゐゝゝゝ
ゝゝゝ白ゐのゝゝゝ
久安百 堀川次 ゝゝゝゝゝ
千首 指ゝゝゝゝ
集 菴ゝゐの白ゐのゝゝ

亀山 慈鎮
長家 公実
実朝 定家
信実 旅枕
俊成
匡房 長家
左院女 尊卑
教長 常陸
為家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

真白生

月辺白ナル物身白モ云

三夏ト持人ノ弱ノ〻ヲ老モ惜ムカ如ク降ラ〻ス文ニモ見エテ万ノ木ノ葉ノ赤白ノ黄ナル時ニ云

秋ノ霜ノ降ル如ク万白ノ雪ノ降ル如ク物ニ譬ヘテ云

花ノ散ル羽風モ雄小鳥ノ雌ヲ慕フ声モ皆ナ白ノ雪ノ降ル如ク万ノ事ニ譬ヘテ云

夫木

白髪ノ万白ノ雪ノ降ル如ク万ノ事ニ譬ヘテ云

大系ノ部ノ末ノ部ノ万ノ部ノ雪

同

陸奥ニ有ル名ノ鳥ニ万白ニ有ル年ヲ経タル百ノ白髪ノ雪ノ降ル如ク万ノ事ニ譬ヘテ云

堀川次新古

家集

定家

為家

為氏

為世

為藤

為相

為守

為冬

為秀

為定

為忠

為成

為盛

為忠

源氏

公任

竜山

慈鎮

為昌

顕仲

俊頼

基俊

顕輔

顕綱

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67

ガラス使用

烏生

言ヲ
烏生ノ烏ノ子ノ如キモノアリ定家
雨ノ降ルニ松ノ葉ヲ伝フ雫ノ音ヲ聞キテ烏生ノ子ノ如キモノアリ定家
雨ノ降ルニ松ノ葉ヲ伝フ雫ノ音ヲ聞キテ烏生ノ子ノ如キモノアリ定家

黒生

言ヲ
烏生ノ黒生ノ子ノ如キモノアリ定家
雨ノ降ルニ松ノ葉ヲ伝フ雫ノ音ヲ聞キテ烏

藤生

胸ノ毛生 藤ノ花咲カリ名如ナラス
おろち尾花を胸のそへ胸より肩へ毛のうつくしに似るを也

言ヲ例ヘ秋ノ萩ノ花ノ露ヤ秋ノ野ノ毛ヲもつてそめなしたる如き和名ヲ
百ヲ松ノ木ニかくる蓑ノ鷹ヲいふ
ふるき蓑ノ如ノ鷹ヲ蓑ノ毛ヲ

定家

藤白生

白鷲ノ胸ヨリ肩生ノカハリシ也

言ヲ夜ノ鷹ヲ言ス雪ノ野ノ雪ノ如ノ白ヲ雪ノ如ノ白ヲ

藤黒生

黒斑アル也 白鷹ノ胸肩ニ黒毛アル也

言ヲ言ヲ

定家

翡翠生

青色

言ヲ指ス翡翠生ノ鷹ノ羽ノ如ク青ヲ

定家

桃生

小鷲 桃毛

言ヲ例ヘ桃ノ花ノ如ノ赤ヲ

定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

鳴生

形先尖ノモト細シ小鷹

三百ヲ百ヲ百ヲ 秋ノ野ノ岸ニ波ノヨウニ折リ敷キ折リ敷キ

鶉生

筋ニツリツテ尾先尖シ小鷹

三百ヲ百ヲ百ヲ 秋ノ野ノ岸ニ波ノヨウニ折リ敷キ折リ敷キ

千鳥生

千キリノ如切也

山鳥生

嘴貝ヨリ切ル也又モヂリフ

琴柱生

百ヲ百ヲ 秋ノ野ニ羽ヤニヲヒノヨウニ折リ敷キ折リ敷キ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

赤生

乱生

身寄（ミヨリ）

右方

棚先（サキ）

手前左方

定高御門鳳尊之左柱ヲ取棄内ニテ鷹ヲ据給フ今世迄鳳尊左柱取置

百首 棚先の角の柱かのくろき衝羽の

三首 棚そんのものもより二月

棚先小き角もやうにうるのの日ホ方より

筈鷹のごとく棚そんの羽ともそのの毛ふつ

なそんの羽ともやうの鷹のそりきよき姿ひん

鳥加良美

中指ル

言て飛ようそ見れっか計ルやうそ

加計ル

掛指ル

言て飛ようとするかのるうことより

守知ル

人身指ル

何もきらん

定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

足踏

拳ヲ動ニ足踏ナスヲ云 副付名也

迈指（リ）

眠指（ナス） 脊ニ頭ナシ三ツ眠形ヲ云

三百ト雖モ鶏ノ如キ（ヨウナ）ニ成ル（ナル）ヲ迈（リ）指（ナス）ト云也 定家仲正

三百ト雖モ蒸（ムシ）鶏ノ如キ（ヨウナ）ニ成ル（ナル）ヲ迈（リ）指（ナス）ト云也 定家仲正

三百ト雖モ蒸鶏ノ如キ（ヨウナ）ニ成ル（ナル）ヲ迈（リ）指（ナス）ト云也 定家仲正

三百ト雖モ蒸鶏ノ如キ（ヨウナ）ニ成ル（ナル）ヲ迈（リ）指（ナス）ト云也 定家仲正

木脱（コスケ）

森ヲ木（コ）ト云 木ノ葉ノ脱（スケ）ルヲ云

三百ト雖モ木ノ葉ノ脱（スケ）ルヲ云 定家仲正

三百ト雖モ木ノ葉ノ脱（スケ）ルヲ云 定家仲正

三百ト雖モ木ノ葉ノ脱（スケ）ルヲ云 定家仲正

菓子（クワシ）

菓（クワ）子（シ）ト云 菓ノ内ニモ菓ノ毛ノ生レ（ハエ）ヌ菓ヲ云 竜山

菓（クワ）子（シ）ト云 菓ノ内ニモ菓ノ毛ノ生レ（ハエ）ヌ菓ヲ云 竜山

菓（クワ）子（シ）ト云 菓ノ内ニモ菓ノ毛ノ生レ（ハエ）ヌ菓ヲ云 竜山

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

絇懸（カケ）

百首注絇懸ハ弓ニ絃ヲ懸ル也當歳鳶也 但シ取ル也

言ヲ出シ言ヲ入レ和ト絇懸ト百ト百人ノ如キヲ絇懸ト云ヒ
い
野ニ放シ飼スル地白赤ノ如キ
い
ヤヒラ羽ヲ揃ヘタルヲ云ヒ
新六
ヲ絇懸ノ如キヲ云ヒ

定家 為顕 定家 為鎮 竜山 為家

鳥呼（トヨヒ）

鳥ヲヨヘ〳〵ト三度呼ト也又犬飼ニ声鳥ヲ〳〵ト呼後脊ナ声
鳥下言合三声其後ハミヨ〳〵ト斗也
言ヲ出シ言ヲ入レ言呼ノ事キニ云ヒ
百ヲ百呼ノ如キヲ云ヒ

定家 仮名

泊山 泊狩

言ヲ出シ言ヲ入レ
い
い

鷲ノ尾ノ小々ノ泊ノ如キヲ云ヒ
泊山翁ヲ始メ数多ノ人ノ集リ居ル本ノ如キヲ云ヒ
犬ノ鈴ノ如キヲ云ヒ
眉ノ如キヲ云ヒ

呼也
有
霜

仮名 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

巣山

言て喋く鳥の住処をいふ古き

青嶺

言青き嶺つゞきある山の事の称にも

柧皮帽子（ツカハシ）

言て物の柧なるにもそれつゞきて

錦帽子（アフシ）

言て柧の錦の帽子をいふ

手巻（テマキ）

言て

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

捻（ヒナリ）

馬上ニテ鷹ト鳥ト落ツルナヒトツニ取アヘル也 鶴ヲ打ナドニ用ヒ
鉄ニ作竹ノ柄大人長ニアリ

百ニテ捻ルノ名アリ
一ニテ捻ノ文ヤ
三百ニテ糸ノ細ク長クスル材ヲ云

攤策（ナブリ）

堅ク長物也 鷹撰ニ鷹夜据ル時寐カヌル具也
又竹撓ヒ云ヘ大小縮ム同ジ

三百ニテ鞭ヲ宥ルス鷹ノ
三百ニテ敷ヲ云

定家

行縢（ムカバキ）

革ノ花紋彫注ス
ウヘシキヲ云

あてるとすとき
熊皮故實也

万葉ニ有ル文野ヲ
ヒロセ鷹ノ文野ヲ
ヒロセ

行纏（ハバキ）

蒲ニテ編ム也 毒虫ヲ除

令経

接腰（コシアテ）

胸當ニ似テ前懸ヒシ腰ニアテル物也
花鳥金襴 高院大井川行幸 秉保三年 唐錦一用ト云ヘリ

鷹ノ一ノ三ツヲ体ス 那須ノ笠ノ下ニ本ノ本

勒（ムナ）肚（アテ）巾

狩衣上結紐
飼袋生袋結之

前懸（カケ）

胸當ニツケルモ
錦武草

百人一首 ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは 在原業平朝臣 古今 恋五

狩杖

僧師笠ノ端ニ乗ヘ切ル 大創目ノ通リニ切傳 五十以上人カ杖トス

三百六十五日の内の晴天ハ一日もなし 雨の降らぬ日は風吹き 風吹かぬ日は雨降る 雨風吹かぬ日は霜雪降る 霜雪降らぬ日は雷鳴る 雷鳴らぬ日は地震ふる 地震ふらぬ日は日蝕月蝕あり 日蝕月蝕なき日は彗星出づ 彗星出でぬ日は大風吹く 大風吹かぬ日は大水出づ 大水出でぬ日は大火あり 大火なき日は疫病流行す 疫病流行せぬ日は飢饉あり 飢饉なき日は兵乱あり 兵乱なき日は必ず大地震ふる 是を以て人間に生を受けて一日も安楽なる事なし 是を思ひ知るを悟りといふ

百人一首 わびぬれば今はた同じ難波なる みをつくしても逢はむとぞ思ふ 元良親王 後撰 恋五

狩声

百人一首 百敷や古き軒端のしのぶにも なほあまりある昔なりけり 順徳院 続後撰 雑下

手伐弓

足ヲ腰ニ引付据ル也

百人一首 いにしへの奈良の都の八重桜 けふ九重に匂ひぬるかな 伊勢大輔 詞花 春上

言ヒ伝ふるがごとく仕成めん 拳引くがごとく 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

餅

置餅生ロ水藥土包指協增心

三盲取ル秋の蛋餅ヲ餅ニ
秋ハ七ク蛋餅ノ格ノ
ヲ取ル蛋ノ
餅ニ
蛋ヲ
青ノ
蛋餅
餅ヲ
島ノ
尾モ
去餅
笑ノ
中絶ノ
雨ノ

餅

前松餅ニ
蛋餅ヲ
亜餅
ニ清ル
夏ノ
餅ヲ
餅後ノ
餅ノ
受百
三盲ヲ
餅ヲ
餅ヲ
秋ノ
餅ヲ
餅ヲ
餅ヲ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

泥抜（ドロイヌキ）

俎抜也　餉作抜　長二尺廣分高四寸五分通例　梨　桑ヲ用ル

言ク古例のごとくする泥抜のごとくつくる　定家

餉(餉)子（ユカツシ）

志餉入器　餉箸鐓　餉盛器ニ蘆取似物也　鳥帽子形　有り柄長五寸上方楕円アリ

餉筒　捲物　筥モアリ　香盒如ク藁ヲ編ム　餉俵ノ云

鬲木（ソロウシ）

餉吐也　餉ヲ扠ヲ扠也　胸餉持　受持ヲ好所ヲ押　毛骨ナト残ス事ナキ也

唐員ノ鬢髱　食終　其皮毛ヲ吐テ九ノ如シ

言ク以ル通すごとくする餉つくるに餉のごとくつくる　定家

餉代衣

皮也　今ハ餉筒ヨテ外ニ用　上古ノ袋ニ生馬ヲ入ル形ノ如シ　昔ノ人ノ貌ヲ入ル貌ト云ヘリ

言ク　そうのごとくする餉袋をもさせる　餉袋　定家

言ク　そうのごとくする餉袋をもさせる　餉袋　定家

言ク　そうのごとくする餉袋をもさせる　餉袋　定家

生代衣

言ク　交野ノ少将ノ男ノ生代衣ノ事　定家

關緒（セキヲ） 虎緒

虎草 虎緒同一說虎緒平ク鬼緒 虻蜘緒 皆同物

関緒カタメ又ハ轉ナトヨリ 般ニ付ル革ナリ

三貫ニ伊勢ナルハ上ナルヲ用ユ 其ハ緒ト云 脇ニ付ル革ヲ云

鏃（モトリ）子

天助ニ作ル 鏃ト同 鍔モ度保利 即大緒足革ノ間ニ付ル 金具也 又角ニ作ル 或ハ黄鷹ヲ引ク鏃ヲ用 撫鷹ヨリ放ス鏃ヲ用ユ 新鷹ニ假竹ニ作ル 是ヲ山鏃ナトヨリ

三貫ニ伊勢ナルハ上ナルヲ用ユ

新ニ ホホノ白ノ下カノ羽ヲ用ユ

卧篭（フセゴ）

以竹造之 風雨ノ夜ナト入置具

三貫ニ移雀鷹ノ伏籠小ハ小鷹ノ生ノ羽ノ在 保栄秘

偃衣（フセキヌ）

卧衣ニ作ル 鷹衣也 臥時具也 大鷹白練 紫生赤鷹生絹 常鷹緑色 大鞆 尺八寸 久尺二寸ノ絹ヲ用又紙モ用

三貫ニ偃鳳ヲ一ノ字ヲ付ケテ守セテ歩ルカノ伏ニ定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

樊篭（マクラ）

樫ニ造ル雨風之時鷹入ル之具

鞿手（アテナ）

韋紺 穢記 又脚絆 今ニ足革 犬岐豆奈トモイヒ 黄鷹 薫草 鳥屋ニ染革 常鷹ハ黒革 府督ハ兎革 又紫ハ皂鷹也 所以緻鷹拘也

三首ヲ合テ一羽ノ毛ヲ付ル事ニテ候 定家

いかにせん あちらへ犬のわれをやる 定家

いかにせん 外様ニ大備斗をつるき 定家

韝（ユガケ）

又尾鷹ニ作ル 尾ノ損セヌタメノ具 庶色絹ヲ用ル又随尾

山足緒（ヤマアシノヲ）

鞿ト書ク今真革ヲ用ル 管緒トモ

三首ヲ合テ一羽ノ毛ヲ付ル事ニテ候 定家

藻花（ハナ）

足緒ノトカリニカル処ニ書手帯又手蓋ニ作ル

大備るるもん 定家

山緒（ヤマノヲ）

緒 藤蔓又葛蔓ヲ用ル時有習トリ 指トモ

三首ヲ合テ一羽ノ毛ヲ付ル事ニテ候 定家

家集 定家 雅親 顕季 貫之

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

小梔緒（コクチノオ）

大緒ノ付鏡ヲ除結ヒ収ム也　飛鳥緒ニモ其端小梔ニテ丸キヲ以テ作リ故ニ名トス

夬絛（トリイト）

今云菅緒　山足緒ト同　竹管ヲ入ル、ニ因テ別名トス

華粧革

即冠革也　大緒ノ組緒ニ先敷ニ切テ縫也　小梔緒ノ革也

絛（ナヒケ）

式繫ニ作ル　今云大緒　廣員　絛ノ糸縄也　智於保乎　色糸ヲ用組様文庫　絛大鷹ノ尺寸　裝束ニ寸与緒ニ寸　紅革黒皮　小鷲　咒五寸　裝束ニ寸六分真外陽　章考標　肌鷹ノ詩ニ縦令紅絛結啄断未君呼不敢飛　略註　今製ニ大紅繫ヲ用　鷹飼部屋ニハ二寸四分ヲ用　ナリソヒテ

三ヲ以テ
い
つ
つ
い
い
夏ヲ
大緒ヲ
棟ノ架ノ

腰緒（コシヲ）

腰莩也　尾ヲ軾轢目ニ血溜ルニ二節アリ用ル短莩ヲ受緒又待緒　無足ハ身漆ヲ
莩也　山鵜ヲ用　緣莩　ヨリ綴タル莩也　凡古来鷹具トスル物大方　差下ヲ　ノヲモリオトヲ

鳰縄（オキナハ）

鳰（ヲ）物　大鷹ニヘヲ大鷹ヲ羊ト
高木鳰　羽向悪キ鳥逃ル時呼取ヲ此ヘヲ呼索

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

鳰（ヲ）

唐員曰　鳰　戈射之緻ヲ収ル具也　緻ニトヲ也　糸ヲ禽足ニ付テカヾル是ヲ矰繳トヲ今ヲ経緒　唐ニ尾縄
漢語抄閑麻岐　細麻緒ヲ以テ製　新島不馴　裹不飛之具也　又十丈也　但人意ニ依ニ

ガラス使用

前出 カタタスキ

構

篭手上同 說文曰 射臂之沓也 智太加太奴岐又多未岐又小手 辨色立成曰臂衣也 今鷹飼小手即鷹手套也 製法秘傳櫟及柔ト文選西京賦 青骹擊於韝下

楪 カケ ヒヨウ

鷹韝也 左手ノ五指ニ着ク 今ニ手覆又 野拍

鷹秤 カカリ

鷹ノ架トカニ一尺二寸ニ杙ヲ二ツ立テ其杙ニ一尺寸ヲ竿ヲ横ニ付テ其竿ノ中ヲ糸ニテ結ヒ懸ケ其竿ノ両端ニ糸ヲ付テ其糸ニ餌ヲ結ヒ懸ケ置テ鷹ヲ居ル器ノ事ナリ 毋

三百ノ内 男山檜ノ下ニ居ル 定家

架 カ

峯門也 鷹繫木也 天福書ニ春櫻 夏柳 秋楓 冬松 竪山櫻 橫木白膠木 今ノ四季架也 又春松 夏梅檀 秋楓 冬松 相木架トモ云 品類多クアレトモ

外架 野架 壽命架ニ 草架 草ニ居ル鷹也

三百ノ内 男山檜ノ下ニ居ル 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』 請求記号 は-67

ガラス使用

架布

架垂 尺ハ竪木之間ニ随フ大抵下ヲ三寸二分縫明テ纈纈ヲ黒茸ヲ結也 結目表向ニ
淺黄又抹深 家紋付ル上ニ一町横下五町竪ニ縫並ベル也 神佛ノ前芝居ニ架ナシ
架衣 編衣 蓑ニ作ル 霞衣 雰衣 此二品傳秘ス 名品類棲ニ有ニ

三百ヲ ヒロクカノトヲ ヒロク架布ノ ヒロク 定家

罔(キヅナ)

唐貝白罔 音訛漢語抄曰網島著婦也

三百ヲ ヒロク 網ノ ヒロク 定家

鷹鈴

鈴目指　鈴菴指　朝鷹也　鈴音ヲセシト擬ノカハナ細三字サス支也　大鷹ノ鈴　差枝ト唱也
白金鈴　銀　真金　黄金鈴　金也　鈴口　竪ハ内向　横　斜向ヨリ

大鷹ノ鈴　差枝ト唱也

一　百ト
　百ノ字大ク多ク　もゝ　ももと　百ノ字ヲ大ク書ハ百ノ字ノ一ノ横ヲ長ク引ナリ　百ノ字ヲ小ク書ハ百ノ字ノ一ノ横ヲ短ク引ナリ　百ノ字ヲ中ク書ハ百ノ字ノ一ノ横ヲ中ク引ナリ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

白塗鈴

百ひろ　松の上こずゑも白ぬりの
家集　めぐりのすもゆらにたっそのに会せてそ言ふ白みのうか

顕季

鳥屋

鳥屋

一一一

蒸鳥屋（ムシトリヤ）

四方土ニ塗ル也入氷室山ヨリ其鳥屋ノ中ニ樋ヲ通シ水ヲ流シ入ル有奇ニ行水ナリ

百ニて言ニて 箭竈のひと木の中ゆけそく海ほおろぬ山やゆ〳〵水の音ふるひのふりひ 定家ほ秘

新六 後撰遺 續古 夫木

言そと 南嶋の七つのうつほに餝もの前にすゑ 中務親王小侍従 定家ほ秘

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

狩犬

苗犬　放物論ニ成ハ乾位ニ居ル者ヲ苗犬ト云　蒼鷹ヲ臂トス　犬遣　犬ヲ手ニ装束古実ニ公家武家差別アリ

三首　首

笹雪の末白妙のからころもきたるこえのこ犬うる　定家

卸物とのそ飛犬の白ふかやきたるこえのこ犬うる

つるぎ刀つかのまの露よりに犬のそむもりこのようにきたるこえのこ犬うる

そらみつ大和の国をおほふ迄入犬はなをも尚しるべせよ

谷ふかみ入犬はなをも尚しるべせよ

村の田おこすようにうちかへしいよいよ犬をつかふべきかな

落葉踏むかさこそ聞ゆ狩人の二つのきつの犬をそろへて

狩人の手の内ならす犬のつかひやうよりの犬のつかひやうにて

よりの犬大犬ながら取しかり人

をつつき井の中の蛙のうけうつる秋山の木のくれ竹のうき節ふしや犬のおもてを

狩人のおもてを見つつ引連れるうしろの犬ぞ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67

ガラス使用

三百こ
〃 あしかり 海狗 こまの毛 馬よりきさすわ 馬に乗る人 犬鼻をを合くよ 犬の名 俺
〃 かなみ 犬の名 こまの毛のうち きまだら 犬の名 おれに犬 おれ犬 犬のくんふる 犬の名 我
〃 おれ犬 おれ犬 犬のくんふる 犬の名 我
〃 おれ犬 おれ犬 犬のくんふる 犬の名 我
〃 畜 海狗 鞭前 走る 合くの 犬のつく 犬の名 我
〃 犬の木の下 犬の名 我
〃 犬 犬の名 我
〃 犬 犬の名 我
〃 犬

犬飼

犬飼帽子トテ帽子ヲキルトキニ

定家

竜山

雅親西行実業

保古利毛
兄弟毛
見上毛

保古利毛

首ノ廻リノ毛　怒時愁時此毛逆立

三百ヲ超ス獣ノ首ノ辺ニアル毛イカナル物ヲモ恐レサル毛

兄弟毛

イヌノ長毛ニ本限多アルヲ云

百ヲ一ニ超ス大小ニカヽハラス同ノ父母ノ毛ノ如ヨリ親シキヲ云

西行

見上毛

月ノ上ノ毛

百ヲ一ニ超スル獣ノ体ノ下ニアルヲ云ニ乃チ此毛アリ

頼政

入日毛

目ノ上ノ毛ヘテ薄紅處

百ノ人ノ二ヨリ三ヨリセノ人ニ毘入日毛ノ大ソツノ〻ル

匡房

押毛

鼻ノ上ノ毛

百ノ人ノ二ヨリ三ヨリセノ人ニ毘押毛ノ大ソツノ〻ル

定家
師良

心毛

胸ノ毛

百ノ人ノ二ヨリ三ヨリセノ人ニ毘心毛ノ大ソツノ〻ル

匡房

尾花

尾ナシ

百ノ人ノ二ヨリ三ヨリセノ人ニ毘尾花ノ大ソツノ〻ル

匡房

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

節木

脊ナリ

永久ニ青ク茂ル木ノ節木ノ如クナルヲ以テ名ク

伏柴

脊上ノ方也

醒酔ニ効アリ

山甲斐

脇腹又山口

三百ヲ大劔ノ方ヘ先ヲ志ツクシノ如ク

山懐

一ノ乳ノ辺也

百ヲ野犬ノ心ヲ知ル地ナリ

山口

アゴノ上

百ヲ

山落

島ヲ取ル日ハ肩ノ縄ヲ

三百ヲ

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

山陰 ハド也

片山 肩處也

百ヲ片山の立ち早くりたるやうなる形 兼良

葛袴 股ヲ九ノ字ノ形

三百ヲ秋の野のごとく張せる葛袴のきく 社ろうそう筆 定家

四阿 前足ヲ立後足ヲ屈ル時形

百ヲ晴ル法ニ立ちつくしたるやうなる体も四阿のごとく 定家

逆 足ノウシロ凡

三百ヲ何ぞのするかうるの宝ぢにさそうのごとく 定家

澤潟 足形

百ヲ沢潟のありつきたるやうなる形 兼良

烏芋 足裏

百羽掻

九寸長ヲ羽掻ノ云

落足

前足ノ上ヲ肩名ヲ云

勞走

口吸ヲ明名形

三百ヲ云ヲ走ノ内ノ大ニシテ人定家

片削

両耳見立

片ヲ手ノ下ヲ云ヲ削ヲ毛ヲ云

臥田

鳥ヲ見付胸ヲ地ニ付行成

三百ヲ云ヲ臥ノ内ノ犬ニシテ大ノ外田ヲ云ヲ臥ヲ云ヲ定家

滝河

胸ノ腹ノ間ヲ云

百ヲ云ヲ滝ノ内ノ犬ノ胸ノ下ヲ滝川ノ音ヲ云ヲ大ニシテ人定家

葵葉

馬ヲ見付シトヒシ時耳ヲ立シ形

笹栗

鼻先黒キ處

霞

前足ノ後落足ノ脇ヲ云

小軍

跡足ヲ折休シ時

一花

犬ツガヒ舌ヲ出セシヲ云

草分

肩也

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67
ガラス使用

曙

前足ノ向ヲ云

百首 走つ先こ居ゐつ歌叫ぶの鳥並早き 小鷹犬の部 無良

河伯子犬

目ノ間ノ左右犬下品也

三首こ首この流ると河伯子の犬 定家

草飛犬

尾也

三首こ沖狗との子も飛犬のわざとかやすまこそ人ふるこん 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

犬鏃子 蒲穐 遺縄

犬鏃子

鉄器 縄釜ヲツケ飢也

百ヲ一ト束ニシテ犬ノ達スルトキ之ヲ一人ニテ持ツ

蒲穐

二月ヨリ蒲ヲ刈テ三歩ニシテ犬ヲ殺ス也 諸病除

百ヲ一束ニシテ有名ノ蒲ヲ以テ薬ヲ包ミ犬ニ負セ猟ニ行ク 猟人 経

手縄 遺縄 引縄

鈴付ヨリ付ケ縄

三尋ヲ一束ニシテ山路ヲ行クトキ犬ノ縄ヲ放セ。犬ノ前ヲ行キ又ハ後ニ引縄ノ如ク引ツレ行ク 猟師 定家

佐波木 起縄

佐波喜

斧鈴ヨリ付ケ縄

三尋ヲ一束ニシテ犬ノ縄ヲ放セ。犬ノ前ヲ行キ又ハ後ニ引縄ノ如ク引ツレ行ク 猟師 定家

起縄 ノ縄

引前

三尋ヲ一束ニシテ犬ノ縄ヲ放セ。犬ノ前ヲ行キ又ハ後ニ引縄ノ如ク引ツレ行ク 猟師 定家

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

胸糸

起縄ヲ草分ノ褌ニ結鈐ヲケル

言ヒ起縄ヲ胸ヘカケテ

前鈐

胸糸ニ結ヒ鷹鈐子犬鈐背ト云

言ヒ右ノ環ヲ前鈐ノ右ノ環ニ

跡鈐

脊遺縄ノ除ニアリ

言ヒ泊ノ右ノ如ク犬ノ跡ノヨウニツク 犬ノすて 定家

褫伐

宇知加比伐犬餌也 助飼犬為ニ立ル飯ニスカヲ云

言ヒ右ノ如ク犬ノ口ヲ縛ル布ニ犬ヲ

百ヒ這ヲモツテ伐ル犬ノ口ノうらノひ俵 定家

2種

緤

犬具鎗ニカケ用ス二尺五寸ニ

辞標曰繋犬也

文選南京賦 韓盧緤未咫ニシテ牽犬連也

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

犬鈴

二ツ有前鈴跡鈴ト云

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

鈴（すず）

野王案ニ鈴ハ犬鐸也

犬枷

和名抄曰譬如枷犬繫之於柱終日繞柱不能得離（混槃経文也枷讀師説久比都奈）

鳥柴

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67

ガラス使用

鶡學習（カクシフ）禮記月令季夏之月溫風始至蟋蟀居壁鶡乃
學習（カクシフ）古註鄭氏云鶡學習謂習
攫搏（ヅクヅク）也夏小正曰六月鶡則（ヅクヅク）
鶡鳥始（ヅクヅク）執（ヅクヅク）学

鳩化爲鶡七月
設罟（ミ）扇羅（ウ）孟秋月涼風至白露降鶡
鳥不（ズ）盡食（クラ）若人君行刑殺（ス）之而已

鶡旦（ヨバフ）発（ヒラ）鵲（カサ）日（ヒ）季夏行冬令鶡旦不鳴（ナカ）
保（ヤスン）

征鳥厲疾古註殺（ス）氣當（ニ）極也征鳥（ハ）謂（ヒ）隼（ハヤブサ）之
擊（ウ）征（ツ）或名（ヒ）鶡仲春化爲鴆（ト）

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

は
67
特別

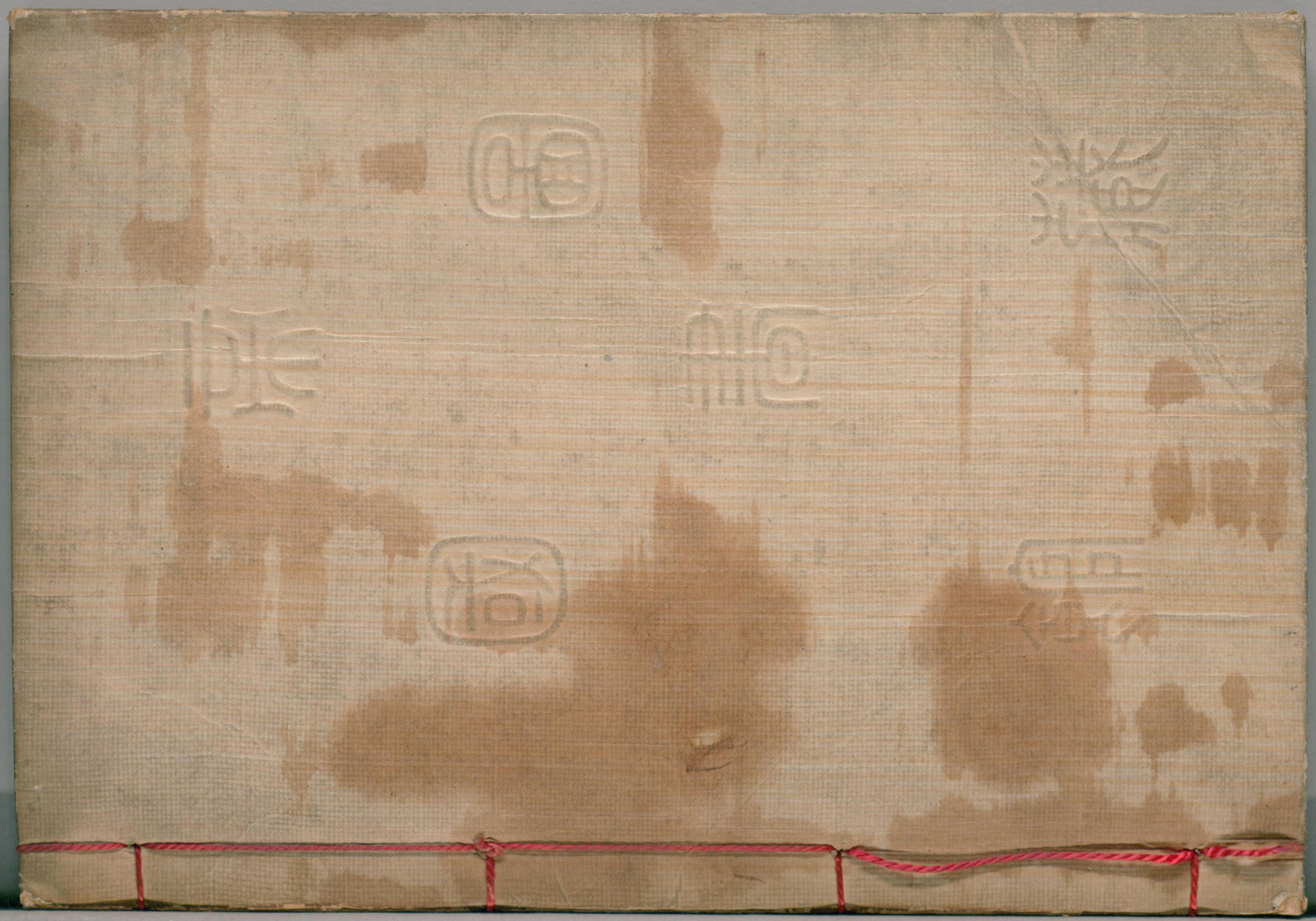
国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用

は
67

国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号 は-67

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『放牽類聚』　請求記号　は-67